

平成20年度

# 学校評価報告書

学校法人東海医療学園

## 東海医療学園専門学校

1. 学習者中心の学びの場の創造

学校目標	具体的な方策	学校評価	課題と改善の方向
1) 授業の改善向上	<p>学生による授業評価、ミニツツペーパーなどによる自己点検評価を実施し、授業の改善向上を積極的に努める。</p>	<p>1) 授業の自己点検評価の実施率69.4%で目標100%を達成できなかったが、実施した各教員共に改善すべき点が明確になった。</p> <p>2) 学生アンケートの意見の中に、「プリントが多い」「プリントが分かりにくい」「授業に遅れる」などの意見があった。</p> <p>3) 教育の改善向上を図るため、「教育マニュアル」を一部改訂し、全教員に配布した。</p>	<p>1) 実技実習の指導内容について再検討が必要であり、これに伴いカリキュラムの見直しが求められる。</p> <p>2) 学生アンケートの結果を教職員に周知し、授業の自己点検評価の実施を徹底し、更なる改善向上を図る。また、教員相互による授業評価を実施し教育の質向上に努める。</p> <p>3) 「教育マニュアル」の内容を見直しつつ、各教員が内容を把握し参考として活用するよう徹底を図る。</p>
2) 臨床実習の充実	<p>卒前教育における基本的臨床能力を修得するため、本校「臨床実習の手引き」を作成するとともに、学生が実際の患者と接する機会を増やす。</p>	<p>「臨床実習の手引き」について部分的に作成することができたが、今年度は未完成となった。また、患者数は増えているものの、臨床実習に協力して下さる患者数の増加には至らなかった。</p>	<p>臨床実習の目的、方法、心構え、注意すべき点、スケジュール等について、指導教員と学生が十分把握するための資料として、「臨床実習の手引き」の作成に努める。</p>
3) 国家試験合格率向上	<p>1) 3学年前期始めに学力テストを実施し、学力レベルを把握する。</p> <p>2) 「国家試験問題集」を配布して問題の傾向を把握させ自己学習を推進する。</p> <p>3) 3年次に3回の模擬試験を実施す</p>	<p>本年度の本校の国家試験合格率(既卒除く)は、「あん摩マッサージ指圧師」100%、「はり師」88.9%、「きゅう師」87.3%であり、厳しい結果に終わった。</p>	<p>1) 今年度の結果を真摯に受け止め、不合格者の問題点を追及し、成績不振者に対する指導のあり方についてあらためて検討し、合格率向上の方策をたて実践する。</p> <p>2) 新年度は、可能なかぎり学生と</p>

	<p>るとともに、その結果を踏まえて補習授業を実施する。</p>		<p>教員がコミュニケーションを図りつつ、現状認識とモチベーション向上に努めるよう指導していく。</p>
--	----------------------------------	--	--

## 2. 学生支援の充実

学校目標	具体的な方策	学校評価	課題と改善の方向
1) キャリア支援の充実	<p>進路相談を随時実施し、学生のニーズに応じた進路アドバイスを行う。また、学校主催の相談会を実施、求人先と学生とのコミュニケーションの場を設ける。</p>	<p>1) 11月16日に、市内ホテルを借り第2回進路相談会を実施した。 2) 国家試験終了後より、進路相談の充実に努めた。</p>	<p>1) 進路相談会へ出席された事業所へは、終了後アンケートを実施しているが、一部の学生の対応に不満を感じている意見もあり、事前にマナーや話し方等の指導を行う必要性がある。 2) 求人については、新規開拓をしていく必要があり、定期的に病院、治療院等への訪問をしていく。</p>
2) 中途退学者ゼロ対策	<p>1) 身体的、心理的、社会的な問題を抱えた学生の相談に対応するため学生相談室の充実を図る。 2) 欠席が続く学生には早めの声かけをするなどして問題の発見に努め、教員とカウンセラーとが協力をして解決にあたる。 3) 医学的な問題については学校医に早めに相談し、助言を求めながら適切な対応をとる。 4) 学習面で問題のある学生については、早期に面談を行い、学習方法の</p>	<p>平成20年度は、退学率(在籍者数/退学者数)が、鍼灸マッサージ科で3.7%、鍼灸科で2.1%、全体で3.0%であった。中途退学の主な理由としては「進路変更」、「経済的理由による就学困難」が挙げられる。</p>	<p>1) 医学的、心理的な問題が考えられる場合は、すみやかに学校医、カウンセラーと連携しつつ、適切に対処する。 2) 学生と教員とのコミュニケーションを密にし、問題の把握・解決に対し組織として取り組む。</p>

<p>3) 安全面における対策</p>	<p>改善等適切な助言指導により、成績の向上を図る。</p> <p>施設設備の安全を保持するため、定期的な巡回点検を行う。「危機管理マニュアル」を作成し、危険防止に努めるとともに、万が一の危機に対し適切な対応がとれるよう備える。</p>	<p>「危機管理マニュアル」作成案について、十分な検討がなされなかった。従って、教職員への周知徹底も十分でなかった。</p>	<p>「危機管理マニュアル案」について十分検討するとともに、教職員への周知徹底を図る。また、緊急時にマニュアル通りに行動できるよう研修等を実施する。</p>
<p>4) 経済的支援</p>	<p>1) 日本学生支援機構奨学金や「国の教育ローン」等の紹介を行う。</p> <p>2) 日本学生支援機構奨学金は原則として春の募集であるが、「緊急・応急」採用というシステムもあるため、年間を通じて事務課で相談に応じる。</p>	<p>1) 奨学金については、学生支援機構指導のもと、入学時に説明会を開催し、趣旨を理解してもらった上で募集を行っている。</p> <p>2) 採用数が日本学生支援機構から提示されてくるため、希望者数が超過した場合、提出書類や面談等で学内決定を行い申請している。</p>	<p>1) 近年、奨学金希望をする学生は増加傾向にあるが、採用枠の関係から希望者全員に貸与することはできていないのが現状である。</p> <p>2) 本校ではまだ、学校独自の奨学金制度等がないため、校友会等との連携のもと、制度づくりを行うことを検討していく。</p>
<p>5) 健康管理等</p>	<p>1) 毎学年健康診断を実施し、学生の健康状態を把握するよう努める。</p> <p>2) 健康診断の結果だけでなく、担任等が常に気を配るよう心掛ける。</p> <p>3) 身体のみならず、学生の心の状態を把握しケアが行えるよう努める。</p>	<p>1) 健康診断は、学校保健法に基づき、毎年実施している。また、定期的に担任面談等による状態把握を行い、状況によっては学校医が勤務する医療機関を紹介している。</p> <p>2) 心のケアについては、毎週1回、臨床心理士によるカウンセリングを行い対応している。</p>	<p>時代の変化により、学生の悩み相談の内容も多様化しつつある。今後は教職員と学校カウンセラー、学校医との連携をさらに強め、問題解決にあたるよう努める。</p>

3. 地域への貢献

学校目標	具体的な方策	学校評価	課題と改善の方向
1) 附属臨床センターの充実	地域のニーズを把握し、安全かつ適切なサービスを提供できるよう努める。	<p>「患者様アンケート」の結果、「施術サービスの内容」「施術時間」「待ち時間」「スタッフの対応」等で、概ね満足して頂いている旨の回答があった。</p> <p>しかし、中には「隣のブースの音が漏れて聞こえる」等のネガティブな意見もあり、今後改善の必要があると思われた。</p>	<p>アンケートの内容について見直し、患者様のニーズを把握し、更なるサービスの質向上に努める。</p> <p>「センター便り」は患者様には概ね好評であるが、当センターを知って頂くためより多くの方々に見て頂けるよう検討し、またその他のPRの方法も考え来院者の増加を目指し努力する。</p>
2) アスレティックトレーナー(AT)専攻コースの充実	<p>1) 地域の人達に当校AT専攻コースの存在を知ってもらうことに努めるとともに、地域スポーツや健康教育の分野における貢献に努める。</p> <p>2) 日本体育協会公認ATの資格合格率100%を目指す。</p>	<p>1) 地域高校の部活動、スポーツクラブ等へのトレーナー派遣・現場実習等による貢献ができた。</p> <p>2) 地域住民を対象としたコンディショニング・テーピング講座を実施し、好評を得た。</p> <p>3) 日本体育協会公認ATの筆記試験に3名の合格者を出すことができた。</p>	<p>1) AT専攻コースの教育の質向上に努めるとともに、日本体育協会公認AT資格の合格率向上を目指し、検定試験対策の充実を図る。</p> <p>2) スポーツ現場での活動を継続して行い、選手・コーチとの交流の場を設け、AT活動とその必要性を認識してもらうよう努める。</p> <p>3) 地域住民を対象とした講座を継続し、セルフケアに活用できる知識・技術の普及に努める。</p>
3) 情報発信の強化	教育機関として社会の信頼を高め、さらなる貢献に努めるため、本校の理念、役割、実績等について、より強く発信していく。	<p>1) ホームページにて、学校の情報等をタイムリーに提供している。</p> <p>2) 私立学校法に基づく、財務情報等の閲覧に対応している。</p>	学校評価の内容等について公開する。学校理念、教育目標等について、明確に理解してもらえるような文言で発信していく。

4. 学生募集

学校目標	具体的な方策	学校評価	課題と改善の方向
<p>1) 学生募集のための広報活動</p> <p>2) 選抜方法</p> <p>3) 定員数の確保</p>	<p>1) 広報活動は高校新卒者対象とするだけでなく高校教員、保護者、一般等に対して幅広く行う。</p> <p>2) 高校や会場ガイダンスは直接志願者と接点を持てるため、特に力を入れる。</p> <p>3) オープンキャンパスのテーマは、東洋医学を中心としながら、スポーツ、美容等のジャンルに分けて開催予定を計画する。</p> <p>1) 幅広い年齢層から募集できるよう、高校生推薦入試、社会人入試、学士入試、一般入試という区分で実施する。</p> <p>2) 推薦、社会人、学士については小論文と面接、一般入試については学科、小論文、面接という形で実施し、論理的思考や人間性を重視して選考する。</p> <p>特に鍼灸科(夜間部)については、特色を打ち出せるよう検討する。</p>	<p>1) 学校HPや業者によるWEB、受験雑誌等、オープンキャンパスや入試広告のための新聞、電車広告等への掲出等、その時期の応じた広報活動を行った。</p> <p>2) ガイダンスやオープンキャンパス参加者が受験してきた割合は比較的高いという結果が出ている。</p> <p>3) スポーツ、美容等のジャンルを分けて実施したことは事後アンケートの結果、概ね評判が良かった。</p> <p>1) 推薦入試と学士・社会人B日程入試は同日に実施されているが、論文の出題を別テーマに設定する等、年齢、経験等による選抜の公平性を図っている。</p> <p>2) 面接、小論文では、評価基準を設け合議の上判定している。</p> <p>3) 合否については、複数の教職員による判定会議を行い、厳正なる審査の上決定している。</p> <p>鍼灸マッサージ科については、毎年減少はしてきてはいるが、志願倍率が出ており定員は充足している。しかし、鍼灸科では全ての学年で定員充足が出来ていない状態である。</p>	<p>1) オープンキャンパス等においてはホスピタリティを基本として、教職員全員が参加者の緊張と不安を取り除いてあげるよう誠心誠意対応することが必要である。</p> <p>2) 毎年、同様の内容でなく、参加者と時代のニーズに合わせた企画を常に検討していくべきである。</p> <p>モチベーションが高く、かつ医療人として適性の高い志願者を選抜できるよう適切な方法を検討し実践する。</p> <p>医療資格保有者に特化した選抜、或いは中高年者を対象とした選抜等について、検討する。</p> <p>鍼灸科ならではの特色あるカリキュラムの策定が急務である。また鍼灸マッサージ科についても同様に、常にカリキュラム等を見直し、魅力ある学校を目指す。</p>

